

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

送信先: [report@r-ict-advisor.jp](mailto:report@r-ict-advisor.jp)

派遣決定番号 040K

報告日 令和5年8月24日

報告回次 1日目

## 令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	横手市	代表者名	(課長) 高橋美貴子		
担当者部署	まちづくり推進部	連絡先電話番号	0182-23-6767		
担当者役職	主査	担当者氏名	築瀬 亮朋	連絡先E-mail	*****
住所	0138601 秋田県横手市条里一丁目1番64号				

#### 1-2. 推薦団体 (「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	岡本 真
評価	大変よい
上記評価の理由 (どのようなところがよかったか等詳細に)	<ul style="list-style-type: none"><li>本事業は、上位計画(横手市歴史的風致維持向上計画)にもとづく個別事業であるが、「地域情報化」とは関連の薄そうな分野にも関わらず計画の趣旨を的確に把握されていた。類似事例(高知県佐川町、福島須賀川市)を切り口に、ストーンと腑に落ちるお話をされており、今後の取り組みにあたって大変勇気づけられた。</li><li>依頼者側との対話を重視されるのが印象的だった。現状の背後にあるより重要な要素を「言語化」させ、課題解決への筋道に気づかせるようなアドバイザーだった。メンターとして関わっていただいている山崎博樹氏との呼吸もピッタリ。</li></ul>
アドバイザーへの要望事項	

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日 (申請書より)	支援内容 (申請書より)	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和5年8月4日	事前打合せ(オンライン)	有	令和5年8月14日	844
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和5年8月14日	支援・助言(オンライン)	13時00分	15時00分	
				活動時間(分)	120
3-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

### 4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	<a href="https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/</a>
------	---------------------------	---

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	職員	1人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"><li>本事業は、「横手市歴史的風致維持向上計画」にもとづき、歴史文化資産の活用により地域ブランディングの推進やまちづくりの担い手となる「横手城下ファン」を育成することを目的としている。</li><li>まちを知り、まちを記録し、まちの魅力を発信する手法として、デジタル化やオープンデータ、パブリックドメインの視点が欠かせないと考えているが、これらの理解が浸透していない。</li><li>年齢層/属性の異なる参加者間でのイメージ共有や、具体的な取り組みがイメージできていない。</li></ul>	
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"><li>単にまちの案内人や観光ガイドを育成するということではなく、住民自身が楽しみながら「まち」のことを発信し、そのことが結果として観光振興や地域コミュニティの活性化につながっている。</li><li>→SNSやウィキペディアなど趣味としてのまちの情報発信の活発化</li><li>→デジタルアーカイブの活用による地域振興/観光振興への波及</li><li>・受講者による「横手城下語り部」の結成!</li></ul>	
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	講師・助言者・主催者での対話のなかから、切り口となる具体的なフレーズや手法があぶりだされ、公開講座の具体的な流れや内容を決めることができた。 「パブリックドメイン」「語らう場」「知識の習得よりもモチベーション向上」「調べる、ものがたりを文章化する、公開する…等、役割分担の棲み分けがあった方が多世代が活躍しやすい」「シニアのコネクション、若い人から頼られる場」「地域の魅力発信を市民自らがどのように担っていくか」	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"><li>地域にある「どうということのない素材」や「ものがたり」をパブリックドメインとして公開活用していく手段として、デジタルアーカイブやウィキペディア、あるいは既存SNSの利用は有効な手段である。ただ、口頭で案内しながら「まちあるき」をするということは「交流」という側面から意味のあることで、多様なツールに負けないように鍛えていくことこそが本事業の本質ではないか!という気づきがあった</li></ul>	

	<p>いんもんごがめつた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の多彩な「キャラクター」や「ものがたり」を育てていくことが、訪れてみたいと思わせる魅力につながるという観点から、講座ではエリアを語る切り口やデジタルツールを使って素材を調べることを体験する場、受講者のエッセイ、セッションの気づきを重視する場とすることとした。</li> </ul>
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他</p> <p>当初、単に公開講座当日の流れや具体的な方法を定める打合せを想定していたが、講師及びメンターとの対話を通じて、目指すべき方向性や養成を目指している「語りべ」の方向性について気づきがあった。</p>
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー全員にITスキルが必要なのではなく①素材を見つける→②調べる(リファイン)→③言語化する→④デジタル化する→⑤発信する、という各工程で役割分担した方が多世代が活躍しやすい。</li> <li>デジタルアーカイブ等のツールは陳腐化しやすく、継続させる努力や継承していく仕組みが必要。</li> <li>「ものがたり」を共有するには丁度よい規模があり、それは必ずしも行政単位にあてはまらないので、行政主導に陥らない関わりのカタチを。</li> </ul>
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>公開講座(8/19)に向けた講師・助言者・主催者間で現状及び課題認識を共有する事前打合せであり、アンケートをとる性質のものでないため。</p>
5-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるもののリストより選択下さい ①予算は確保済みであり、年度内に推進する</p>
事業の最終的な目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>横手城下エリアの魅力や、新たな視点で発信することのできる「横手城下ファン」が育成され、まちあるきやガイドの担い手・ICTを用いたまちの魅力発信のためのサークルが結成されている状態。</li> </ul>

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



1. テーマ・構成  
オープンデータと地域発展と発信  
8/19(土)、2部制  
・10時~12時(2時間) 第1部:理論編  
・13時~16時(3時間) 第2部:実践編

2. 趣旨(同本さんに期待すること)  
・横手城下エリアの魅力を探り合い、あらたな視点で発信することによる横手城下ファンを育成することを目的とした全10回講座の一部。  
・WikipediaTownやOpenStreetMapなど、趣味としてのオープンデータによる情報発信  
・デジタルアーカイブのような地域振興/観光振興への活用(古写真イベント、まちあるきコンテンツ)  
→ オールドックスな、まちの案内人や観光ガイドを育成するという手法ではなく、住民が楽しみながら地域のことを発信し、それが観光振興や地域コミュニティの活性化につながるようにしたい。

3. 期待する波及効果(山崎さんに期待すること)  
・オープンデータをうたうことで、横手市役所内部におけるデジタル化やデジタル化資料の活用へプレッシャー。  
・図書館の郷土資料のデジタル化と活用  
・古写真、古フィルム収蔵の仕組みづくりとデジタル化と活用  
・横手城下エリアの歴史文化資源の見える化 など

4. 背景  
・横手市歴史的文化継持計画【国史省、文科省、農水省】  
→ 北部重点区域環境整備方針(横手城下の歴史の風致を活かしたまちづくり方針)  
方針1 城下町としての地域ブランディングの推進  
方針2 城下町の歴史・文化をつまえる魅力的な情報発信  
方針3 歴史の風致を感じるまちあるきの形成  
方針4 歴史の風致を「見える化」するコンテンツの開発  
方針5 歴史まちづくりを推進する連携体制の構築

・横手市歴史文化遺産保存活用地域計画(文化財保存活用地域計画)【文科省】

・音声拡張現実まちあるきアプリ『きくあるく横手花街』と巡る大正ロマンから散歩  
選考「松葉者」ミス横手にも選出された阿波舞者にして、秋田における農民運動のバトロンとして夫を代議士に押し上げた伝説の女優・川俣哲子の伝説を軸に、大正から昭和初期の横手のまちを案内するオーディオコンテンツ。

5. 着地点  
・講座(全10回)の着地点として、受講者を中心とした「横手城下語り部」の結成。